

スウェーデン 環境ニュース

2000年 11月号 ページ1 / 3

住む人の側から健康な住宅を作る

新築の家に住む人がアレルギーになったり、その他の健康問題に悩むことが増えています。これらの問題を起している家は「シックハウス」（病気の家）と呼ばれています。新しい住宅を買う時、どんな家が「病気の家」で、どんな家が「健康な家」なのか、一般の人にとっては分かりにくいものです。スウェーデンでは、買い物して有機食品を買いだす時に、クラブ（KRAV）という有機食品のエコマークを頼りに簡単に見分けて買うことができます。似たように、新築や修復をした住宅の「健康マーク制度」を作ることを目標にした取り組みが始まっています。住宅に関する情報はあっても、専門用語がいっぱいで一般の人には分かりにくいことが多々あります。「健康マーク制度」ができれば、一般の消費者でも健康を守ってくれる住宅が選べるようになります。

スウェーデンには大きな居住者組織がいくつかありますが、そのうち3団体が協力し、「健康な住宅プロジェクト」を開始しました。この健康な住宅づくりに取り組んだ賃貸人協会（Hyresgästföreningen）と住宅コープ協会（HSB）、それに個人住宅所有者全国連名（Villaägarnas riksförbund）が合わせて130万人の居住者を代表しています。

具体的な取り組みは、最近数十年の実験的なオルタナティブ住宅づくりから得られた様々な経験や情報を参考にしながら、健康な住宅をつくるためのアドバイスや手法の紹介、そしてお勧めできる建材のリスト作成などです。建材のリストは、住宅庁や工科大学の研究者などの専門家の委員会のチェックも経っているので、建材業界にとってみれば脅威でもあります。このリストが幅広く参考されるようになれば、リストに載っていない建材がだんだん使われなくなる可能性があるからです。たとえば、現在人気建材のミネラルウールやプラスチック塗料はリストに一切載っていません。政府の建築研究委員会

（Bygghälsöversynsgruppen）とスウェーデン建設業協会開発基金（Svenska Byggbranschens utvecklingsfond）もプロジェクトに資金協力をしていますが、建材業界との協力はありません。

10月に開かれた住宅見本市で「健康な住宅プロジェクト」の依頼で作られた住宅1事例が展示されました。多くの木材が使われており、スウェーデンでは通常見られないバスルームの木製の壁が使われていました。（「健康な住宅」HP、DN 新聞00/9/10）

住む人の側から毒物を拒否

住宅コープ協会（HSB）は独自の取り組みもしています。マンション所有者を中心とした非営利住宅建設・サービス組織リクスビッゲン（Riksbyggen）と不動産庁と組んで、危険な化学物質に対する共通の戦略を打ち出しています。この戦略は、国の政策である15の環境目標（99年5月号参照）のうち、「毒物のない環境」を実現するために国会が定めた目標や方針を基本にしています。住宅コープ協会は10の化学物質を選び、それらを廃止していく方策をまとめています。10の化学物質廃止を、三つの組織が同じかたちで要求しつづけることによって、十分な力になって成功しようという考えです。

この10の化学物質は以下の通りです。

- ビスフェノールA/ビスフェノールAジグリシジルエーテル
- 鉛
- 臭素系難燃剤
- フタル酸エステル
- 塩素化パラフィン
- ケ-ソンCG（Kathon CG）などの商品名で販売されているisothiazolinone類（英名）
- イソシアナート
- 下水に関係のある銅や銅化合物
- 塩化ビニール
- （10個目の物質は日本語名が見つからないが、）スウェーデン語でnonylfenol-etoxylaterと言い、塗料などに使われているものです。

健康問題を起す建材は消費者には見分けにくい、また避けにくいものですから、問題を起す可能性が一番ある物質を分かりやすく公開することがいいことだと思います。夏に、私がよく訪れるスウェーデンの田舎の友人で、建材に含まれている化学物質や掃除つづく

スウェーデン環境ニュース

2000年 11月号 ページ2 / 3

1ページからつづく

に使われている薬剤に敏感な人がいます。アレルギーがなるべく発生しない環境に住むため、自然に囲まれた古い木製の家に住んでいます。彼は室内環境に敏感なため、普通の仕事はなかなかできず、いつも野外の仕事をしていますが、野外でできる仕事は限られているので就職は困難です。勉強も、室内環境が関連してなかなか難しいものです。問題が特になさそうな建物に入る時も、掃除に使われた薬品に敏感に反応してしまうので、普通の生活ができなくて大変そうです。それでも、あまりお金を使わずに好きなことをしながら元気に暮らしています。

(HSBホームページ、その他)

温暖化防止の国際合意がなくとも 望めば対策は取れる

オランダのハーグで開かれた気候変動枠組み条約第6回締約国会議(COP6)は合意に至らず決裂してしまいました。国際交渉による温暖化対策はこれからあまり期待できなさそうですが、国際交渉に頼らずに元気に対策をとっている企業があります。

スウェーデン最大の環境保護団体「自然保護協会」は以前から自治体の温暖化防止対策を推進する活発な活動をしていますが、ハーグの会議を前に新たに企業を対象にした活動を始めました。二酸化炭素の排出削減に積極的に取り組んでいる事例を持つ5社と共同で、企業の温暖化対策を呼び掛けました。「あなたの企業は問題を起こすほうですか、問題を解決するほうですか。私たちは解決派の一部です」と呼び掛けている5社は以下の取り組みをしています。

全国にスーパーを経営しているコープ「コーエフ(KF)」は流通の効率化によって二酸化炭素の排出を70%削減しています。

保険会社フォルクサム(Folksam)は職員が車や飛行機で出張をする代わりに電車への切り替えを推進したり、壊れた自動車が修理中の顧客には環境にやさしいレンタカーを提供したり

しています。

郵便局は、車を使う配達者やトラックの運転手の70%に環境にやさしい運転の仕方を教えたり、郵便配達の自動車のうち10%に電気自動車を導入したりしています。

エン・シー・シー(NCC)建設会社は、新築住宅のエネルギー効率や太陽電池の設置に力を入れています。99年に建てられた住宅は96年の新築住宅に比べ効率が30%向上しています。

エス・イー(SJ)鉄道はエコマーク付き(化石燃料を含まない)環境にやさしい電力を購入しています。

日本の企業も多くの取り組みをしているので、もっとアピールすればよいと思います。

(自然保護協会プレスリリース00/11/10+HP)

壊れた蛍光灯はどうしていますか 水銀を散らかしていませんか

蛍光灯が壊れてしまったら、その蛍光灯をどうしていますか。私の家には今、使用済みの蛍光灯が数本たまっています。なぜかというスウェーデンでは、蛍光灯を有害廃棄物として処理することになっているからです。蛍光灯は普通の電球よりエネルギー効率が良いので環境保護に役に立ちますが、非常に有害な水銀が少量入っています。私が住んでいる東京都世田谷区では、蛍光灯を燃えないごみとして捨てることになっています。蛍光灯の箱には水銀については何も書いていないので、ほとんどの人は有害物質が入っていることを知らないでしょう。先日、蛍光灯を販売している電気製品店に、蛍光灯を買うついでに古いものを持っていきましたが、店員がその蛍光灯を紙と同じごみ箱に捨てているのを見てびっくりしました。

スウェーデンは日本と同じように水銀の入った蛍光灯を利用していますが、その有害性についてきちんとした説明をしています。水俣病を経験した日本なのになぜそんな啓蒙をしていないのでしょうか。

日本の電機メーカーの知人の話によると家庭でよく使われている40Wの直管型の蛍光灯には10-14mgの無機水銀が蒸気の形で含まれています。有害な重金属である水銀を社会から徹底的になくす目標をもっているスウェーデン政府は最近、蛍光灯の水銀規制を強化しています。2002年から有効になる新製品の規制では、長寿命型の蛍光灯の水銀含有率は10mg以下、その他の蛍光灯は7.5mg以下、コンパ

つづく

スウェーデン環境ニュース

2000年 11月号 ページ3 / 3

2ページからつづく

クト形蛍光灯や電球形蛍光灯は6mg以下に抑えなければならないようになります。2003年に再度規制を強化する予定にもなっています。そして、まったく水銀の入っていない蛍光灯が開発されるまで、蛍光灯の回収を続けることになっています。

「スウェーデン環境ニュース」の講読者でもある電機メーカーの知人によると「日本では、家庭から出る蛍光灯について特別な規制はありませんが、埋立てするとき有害物質が出ないかどうかを確かめる基準があり、多くの自治体では蛍光灯を北海道に送って水銀のリサイクルをしています。ほかの自治体では、水銀が溶け出さないように処理してから埋め立てるところもありますが、そのまま埋め立てている自治体もあるでしょう」。

スウェーデン政府は蛍光灯の規制強化とともに、分析化学物質や試薬として使用される水銀を2004年から禁止しました。塩素と水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）の製造業で使われている水銀は2010年から使用禁止にしました。

（化学薬品検査院KEMIプレスリリース00/7/5、その他）

規制が強化される前に 規制をクリア

社員に対する環境教育（ナチュラル・ステップによる環境教育）など、積極的な環境取り組みで知られるスウェーデンの家具・インテリア会社のイケア（IKEA）社は蛍光灯の水銀規制が強化されるかなり以前から基準を十分満たした省エネ電球形蛍光灯を販売しています。イケア社は97年、スウェーデン最大の環境保護団体「自然保護協会」と廃棄物処理会社のランセルス・スペシャルアブファル（Ragn-Sells Specialavfall AB）と組んで省エネ電球の普及キャンペーンを実施しました。53万個の省エネ電球を無料配付しながら、省エネの大切さをアピールしました。その蛍光灯電球に含まれていた水銀は3mg以下ということです。

（IKEAホームページ）

イケア社と世界資源研究所が共同で 世界の原生林を監視

日本では最近、企業と環境保護団体のパートナーシップに対する期待が高まっています。スウェーデン生まれの世界最大家具メーカー・イケア（IKEA）社と、アメリカの世界資源研究所（World Resources Institute = WRI）が興味深い協力活動をしています。イケア社は世界28カ国で156の店舗をもち、総計49,000人の社員がいます。また、世界56カ国の計2,100の供給業者から原材料の購入をしています。原材料の約70%は木材です。

イケア社は99年、乱伐された原生林や保護されている森林からの木材を使わないことに決めました。しかし、木材を区別するための情報が不十分なことから、アメリカの有力な環境保護組織「世界資源研究所」と組み、世界の原生林の状況を把握するための地図を作成する「世界森林監視（Global Forest Watch）」というプロジェクトに250万ドル（約2億7,500万円）を寄付しました。プロジェクトは3年間の予定で、すべての地図がインターネットに公開される予定です。イケア社は平行して、商品に使っている木材の出所を調査しています。2000年9月1日以降、持続可能な形で管理される森からの木材しか使わない目標をたてました。

世界資源研究所のホームページでは、講演会を再現したような形式（パワーポイント風）でプロジェクトを紹介しています。イケア社のスサンネ・ベルグストランド（Susanne Bergstrand）環境マネージャーがその中でイケア社の方針を説明しています：

<http://www.igc.org/wri/gfw/>
（WRIとIKEAのホームページ）

スウェーデン人はゴア候補を選んだ

誰がアメリカの大統領になるのでしょうか。まだ決まらないままですが、スウェーデン人がもし投票して次期大統領を決めた場合、民主党のアル・ゴア候補が簡単に勝っていたようです。スウェーデン最大の新聞ダーゲンス・ニーヘテル（DN）紙がアメリカの大統領選挙中、自社ホームページ上で読者による投票を企画しました。9,000人以上の自主的な「投票」では、ゴア民主党候補65%、ブッシュ共和党候補17%、ネーダー緑の党候補13%、白票5%の結果になりました。（DN紙00/11/9）